

氏名	三 橋 朝 子		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1 1 6 2 号		
学位授与の日付	昭和 5 5 年 1 2 月 3 1 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)		
学位論文題目	再生不良性貧血に関する研究 第 1 編 臨 床 統 計 第 2 編 リンパ球に関する研究		
論文審査委員	教授 長島 秀夫	教授 大藤 眞	教授 栗井 通泰

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

21年間に当教室に入院した再生不良性貧血181例(特発性163例, 続発性18例)の疫学, 病態, 治療に関連した予後について, コンピューター処理により集計し, さらに本症患者末梢血および骨髓リンパ球について免疫学的検索をおこない, 特に本症の重症度との関連について検討した。

推定発病時からの生存期間を比較すると, 1年以内の短期死亡例が多く, 期間転帰別集計においても, 生存期間の延長と共に死亡率は著明に低下した。一方, 入院時の末梢血液像, 骨髓像等の成績は, 予後を左右する大きな因子であり, さらに, 発症後1年以内の出血と感染に対する治療が, より良い予後を得るために重要と思われた。

患者末梢リンパ球では, Bリンパ球百分率ならびに実数の低下, さらにPHAに対する反応性低下から, Tリンパ球の活性にも低下が認められた。末梢血液像より重症, 中等症, 寛解に分類比較すると, 重症例におけるT, Bリンパ球実数の減少と, null cellの増加が著明であった。寛解例ではこれらの異常が是正されていた。摘脾例ではリンパ球数, Tリンパ球数は有意に増加していたが, Bリンパ球は減少していた。骨髓リンパ球では他疾患に比して, ややTリンパ球の増加傾向が認められた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

再生不良性貧血181例についての疫学, 病態, 治療に関連した予後を, コンピューター処理により集計して検討し, 短期死亡例(1年以内)が多く, 生存期間の延長と共に死亡率が著明に低下すること, 入院時の末梢血液像および骨髓像と予後の関係, 発症後1年以内の出血と感染に対する治療が良い予後を得るため重要であること等を指摘し,

また末梢および骨髓リンパ球の動態につき免疫学的検討を加え新しい知見を加えた。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。